

「2025年に向けて実践すべきリハビリテーションとは？」

～「関わる時期」や「関わる領域」を超えて実践する多職種連携リハビリテーション～

やまだリハビリテーション研究所

作業療法士 山田 剛

1. 国や厚労省がリハビリテーション専門職に求めている事
 - 平成 16 年 高齢者のリハビリテーションのあるべき方向
 - 平成 27 年 高齢者の地域におけるリハビリテーションの新たなあり方
 - 平成 27 年 介護報酬改定
 - 平成 29 年 医療と介護の連携に関する意見交換会
 - 平成 29 年 6 月 介護給付分科会

2. 「地域」って意味を分かっている？
 - 「地域」は「場所」、その範囲をきちんと理解しましょう
 - 急性期はリハビリのスタート地点
 - 回復期は生活期リハビリのスタート地点
 - 急性期も回復期も生活期もみんな「地域」リハビリ

3. 活動と参加へのアプローチ

- 回復期で3時間のリハビリ、残りの21時間はどう過ごす？
- 触らないリハビリテーションのこと
- 病院と生活期リハビリのギャップ
 - 病院と同じリハビリ問題
 - 活動と参加はリハビリではない問題
 - リハビリテーションからの卒業
- 看護との連携
- プラスになることなら何でもリハビリテーション
- だから多職種が関わる必要がある
- リハビリテーションはセラピストだけがやるものではありません

4. だからマネジメント

➤ 「リハビリテーションマネジメント」

☆ 「SPDCA」サイクルの実践

- SPCDA サイクルの正しい理解
- ケアマネジャーとの連携

➤ ケアマネとの連携の先にリハマネ加算がある

☆ マネジメントの実際

- リハビリテーションマネジメントの本来の目的はマネジメントすること
- 目標設定
- 期間の設定
- 目標の達成度合いの確認
- 多職種のリハビリテーションへの関わりのアドバイス

4. 領域を超えた連携が必要となってきた

- 広がるすそ野に対応するセラピストはいるのかな？
 - 期待に応えるセラピストはいるのか？
- 多職種連携⇒多事業所連携⇒多領域連携
- あなたの領域のノウハウは他の領域にも活かせる
 - 小児領域と高齢者のグループ訓練のこと
 - 1 対多数の対応の必要性
 - 児童デイと老健スタッフの少数職場という悩み
 - ALS のコミュニケーション支援と超重症児のコミュニケーション支援
 - 地域で少数派の職場はいっぱい、生き残りのノウハウは同じ
 - 病院と地域の連携
 - ケアマネとのお付き合いノウハウ
 - 在宅の ADL 支援のノウハウ
 - 退院前カンファレンスのノウハウ
- 自治体レベルでのリハ職の連携を目指せ

5. 2025年に向けて

- 地域包括ケアシステムの「範囲」での連携を意識する
- リ・スタートすること
- 多領域連携・多事業所連携 多領域連携に向けたネットワーク作り
- あっちがどうかこっちがどうかではなく、近接する領域を理解することで今の領域のノウハウが充実する
- それぞれのノウハウを共有する
- 先行者利益
- 活動と参加の未来にあるのはポジティブなリハビリ人生

お知らせ

普段は2日に一回以上のペースでコラムやnoteサイトを更新しています。すべての更新情報はFacebookページでお知らせしています。よければフォローしてください。

コラム更新情報は Facebook ページで発信



新しい「学びの形」を提供しています。

やまだリハビリテーション研究所のnote



やまだリハビリテーション研究所のLINE@始めました。

